

埼玉アート・シアター 通信

2017 11月-12月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.72

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾

『アテネのタイモン』

Sai no kuni Shakespeare Series Vol.33 "TIMON OF ATHENS"



ジェローム・ベル『Galaーガラ』

川口隆夫『大野一雄について』

平山素子(ダンス)×加藤訓子(パーカッション)『DOPE』

パヴェル・コレスニコフ

埼玉会館ランチタイム・コンサート

ゴールド・アーツ・クラブ

柿澤勇人

Hayato
Kakizawa
Interview

〈蜷川イズム〉を継承する
皆さんとの競演が、
楽しみで仕方ない

彩の国シェイクスピア・シリーズ2代目芸術監督・吉田鋼太郎演出による『アテネのタイモン』が、いよいよ動き出した。
蜷川演出『海辺のカフカ』に参加し、「いつかはシェイクスピア・シリーズに出演したい」と直訴していたという若手実力派俳優・柿澤勇人が、ついに、同シリーズ初参戦。
初日に向けて奮い立つ気持ちを話してもらった。

文●上野紀子(演劇ライター) Photo●夢留見彩

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』



CONTENTS

- 03 〈PLAY〉〈蜷川イズム〉を継承する皆さんとの競演が、楽しみで仕方ない
彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』
柿澤勇人 Interview
- 06 〈DANCE〉喜びにあふれた多様性が、共同体を成立させる
ジェローム・ベル『Gala -ガラ-』
- 08 〈DANCE〉伝説の前衛舞踊家を完コピする試み
川口隆夫「大野一雄について」
川口隆夫 Interview
- 09 〈DANCE〉平山素子(ダンス)×加藤訓子(パーカッション)『DOPE』
平山素子 Interview
- 10 〈MUSIC〉ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33
パヴェル・コレスニコフ Interview
芸術家として誠実であれ、そして、ベストを尽くせ、それが私の信条
- 12 〈MUSIC〉埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回
ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団
新春に味わう和楽器の響き
- 13 〈EVENT〉ゴールド・アーツ・クラブ活動開始!
- 14 〈EVENT〉世界ゴールド祭 キックオフ!
熱い4日間を振り返る
- 16 〈PLAY〉吉川市が挑んだ、初めての市民劇
『Y市のフシギな住人たち』観劇レビュー
- 18 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 〈COLUMN〉岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

〔表紙〕彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾『アテネのタイモン』

編集◎川添史子、榊原律子 デザイン◎柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.Nov.2017 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2017年10月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

埼玉 **アーツ・シアター** 通信

2017 11月-12月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.72

期待が高まる鋼太郎さんの演出

——ミュージカルでは『ロミオ&ジュリエット』を経験されていますが、柿澤さんにとってはストレートプレイでのシェイクスピア初挑戦になりますね。

そうですね。僕が蜷川さんの演出を経験したのは舞台『海辺のカフカ』が最初で最後だったんですけど、その時に「次はお前、シェイクスピアだな！」と言ってくださったんです。残念ながら蜷川さんとの〈次〉は叶いませんでした。今回は吉田鋼太郎さん、藤原竜也さん、横田栄司さんといった頼もしい先輩方と一緒にできるので、すごくうれしく思っています。鋼太郎さんはミュージカル『デスノート』初演で共演して以降、芝居の話からプライベートの話まで全部話せるくらい、本当の兄貴のように慕わせていただいている方です。今回初めて鋼太郎さんの演出を受けるので、『デスノート』から役者としてどれくらい成長しているのか、見てもらえたらと思いますね。ほかの皆さんも舞台に関して、またシェイクスピアに関しても百戦錬磨の方々なので、稽古から本番、千穠楽までの長い期間に、その背中に一步でも追いつけたら……という気持ちで頑張りたいです。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾『アテネのタイモン』

STORY

アテネの貴族タイモン（吉田鋼太郎）は執事フレヴィアス（横田栄司）の助言、哲学者アペマンタス（藤原竜也）の皮肉を無視し、誰にも気前よく金品を与え、ついに破産。友人たちが自分の金目当てだったことが分かり、すっかり人間不信に陥る。森に引きこもるタイモンは、復讐のためにアテネを滅ぼそうと蜂起した武将アルシバイアディーズ（柿澤勇人）に掘り当てた金を与えるが……。

——蜷川さんが手掛けた彩の国シェイクスピア・シリーズの舞台もご覧になっていましたか？

もちろんです。どの舞台からも刺激を受けて、いつも圧倒されていたように思います。「これは俺、できないな〜」とか思って、「ああ〜俺、このままじゃダメだ！」って焦ったりして（笑）。本当に、今度の舞台も挑戦だな……と。こうして話しているうちに、なんだか緊張してきました（笑）。——その挑戦となる舞台『アテネのタイモン』ですが、資産を巡って浮き彫りにされる赤裸々な人間心理や、主人公タイモンの人間不信が濃く、激しく描かれた衝撃作です。悲劇のようで喜劇とも感じ取れる、不思議な面白さを秘めていますね。

本当にそう。金銭の絡みで人間の欲や嫌な部分があぶり出される、すごく面白いお話です。タイモンは人間不信に陥って罵詈雑言を吐くんですけど、鋼太郎さんにピッタリの激しさですよ。もう、『アテネの鋼太郎』みたいな感じで（笑）。僕が演じるアルシバイアディーズという武将は、唯一タイモンを私利私欲ではなく正当に評価して、彼の側にいる人間かなと考えています。この舞台のポスター撮影をした時に「俺、ちょっと不安なんですけど」って鋼太郎さんに相談したんですよ。初めてのシェイクスピアなので構えてしまうところもあって、「武将の役だからトレーニングして、体を鍛えたほうがいいですか？ 何か用意するものは？」って。そうしたら、「そのままでいい。今のお前がいいと思ったからキャスティングしたんだよ。何もいらなから、とにかく裸で稽古に乗り込んで来い」と言ってくれて。すごくうれしかったですね。まあ、それで安穩と稽古場に行っ

たらボコボコにされるのかもしれませんがど（笑）。

たくさんの刺激をもらえる稽古場

——いわば“鉄壁の蜷川組”といった布陣ですから、緊張しつつも安心して身を委ねられるのではないのでしょうか。

そう思います。それで、たぶん自分の未熟なところがいっぱい見つかるんだろうなと。先日竜也さんとも話をしたんですが、竜也さんは15歳から〈役者とは？〉という問いについてずっと考えてきたんだと言っていて。第一線を走り続けるには苦悩もあったでしょうけど、今のご自身の現状をととても幸せに感じていると。でも、「カッキー（柿澤）、俺ふと思うんだよね。このまま幸せでいて、いいのかな？ ダメじゃないかと思うんだよ」って。それを聞いた時に、わあ、竜也さんでもそんなふうに葛藤するんだ……！と思いましたね。そんなふうに稽古場でも、稽古が終わった後でも先輩方と過ごす時間が本当に楽しみなんです。毎日、たくさんの刺激をもらえるとと思うので。

——その竜也さんの思考にはやっぱり蜷川さんの影響が感じられますよね。「安住するな」という言葉が思い出されます。

ホント、そうなんですよ！ そういう意味で、もう蜷川さんからは直に演出を受けることはできないけれど、〈蜷川イズム〉を継承されている皆さんと舞台をやるのが本当にうれしいし、楽しみで仕方ないんです。

柿澤勇人

Hayato Kakizawa

2007年劇団四季に入団後、同年『ジーザス・クライスト=スーパースター』でデビュー。その後、同劇団公演の『人間にならなかった猫』、『ライオンキング』、『春のめざめ』で立て続けに主演を務め、2009年に同劇団を退団。その後舞台・ドラマ・映画を中心に活躍中。近年の主な作品に、舞台『デスノート THE MUSICAL』、『紳士のための愛と殺人の手引き』、『フランケンシュタイン』、『海辺のカフカ』、『スリル・ミー』ほか。2018年は、3月『メリー・ポピンズ』、9月『シティ・オブ・エンジェルズ』への出演が控えている。

——今あらためて、どのようなことを蜷川さんから受け取ったと感じていますか？

自分の芝居に対して「常に疑え」ということ。僕にとって『海辺のカフカ』は劇団四季を退団して初めてのストレートプレイだったんですね。目の前のことを一生懸命にやってきて、また素晴らしい作品に出会うことができて……。別にそれで満足していたわけではないんですが、「このままの勢いで頑張ればいいんだ」みたいな甘い考えを持っていたように思います。稽古に入り、千本ノックでボコボコにいただき（笑）、そんな考えは一気に潰されましたね。「なめんなよ、世界は広いんだぞ！ 芝居とは何なのかを常に考えろ。すごいヤツはいっぱいいるんだぞ」と教えてくれた。まだまだ努力して、勉強していかなきゃいけないことだらけです。

——市村正親さんも、鋼太郎さんも、「蜷川さんは今も劇場のどこかにいて、舞台を観ている」とおっしゃいます。きっと今回もそうでしょうね。

ねえ、いてくれたら……と思います。僕としては、「なかなかやるな」くらいに言ってもらえたらいいですけどね（笑）。そう思ってくれるような芝居をしたいなと思います。

柿澤

Hayato
Kakizawa
Interview

勇人

チケット発売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾『アテネのタイモン』

12.15(金)～29(金) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作] W.シェイクスピア [翻訳] 松岡和子

[演出] 吉田鋼太郎

[出演] 吉田鋼太郎、藤原竜也、柿澤勇人、横田栄司、大石継太、間宮啓行、谷田 歩、河内大和、飯田邦博、新川将人、塚本幸男、二反田雅澄 ほか

チケット(税込) 一般 S席9,500円 A席7,500円 B席5,500円

U-25*(B席対象)2,000円／メンバーズ S席8,600円 A席6,800円 B席5,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

12.15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
金 土 日 月 火 水 木 金 土 祝 日 月 火 水 木 金
13:30 ———★——★— 休 —●—●—●—●—★— 休 —○—●—●—●—
18:30 —●—★—— 演 ———●——●——●——●——●—— 演 —○——●——●——
○＝映像収録のため場内にカメラを設置いたします。
★＝さいたまアーツ・シアターライブ!! 実施予定(開場20分前から30分間)@情報プラザ

DANCE

—— まず今回上演される『Gala－ガラ』（以下『Gala』）のタイトルの由来を教えてくださいませんか？

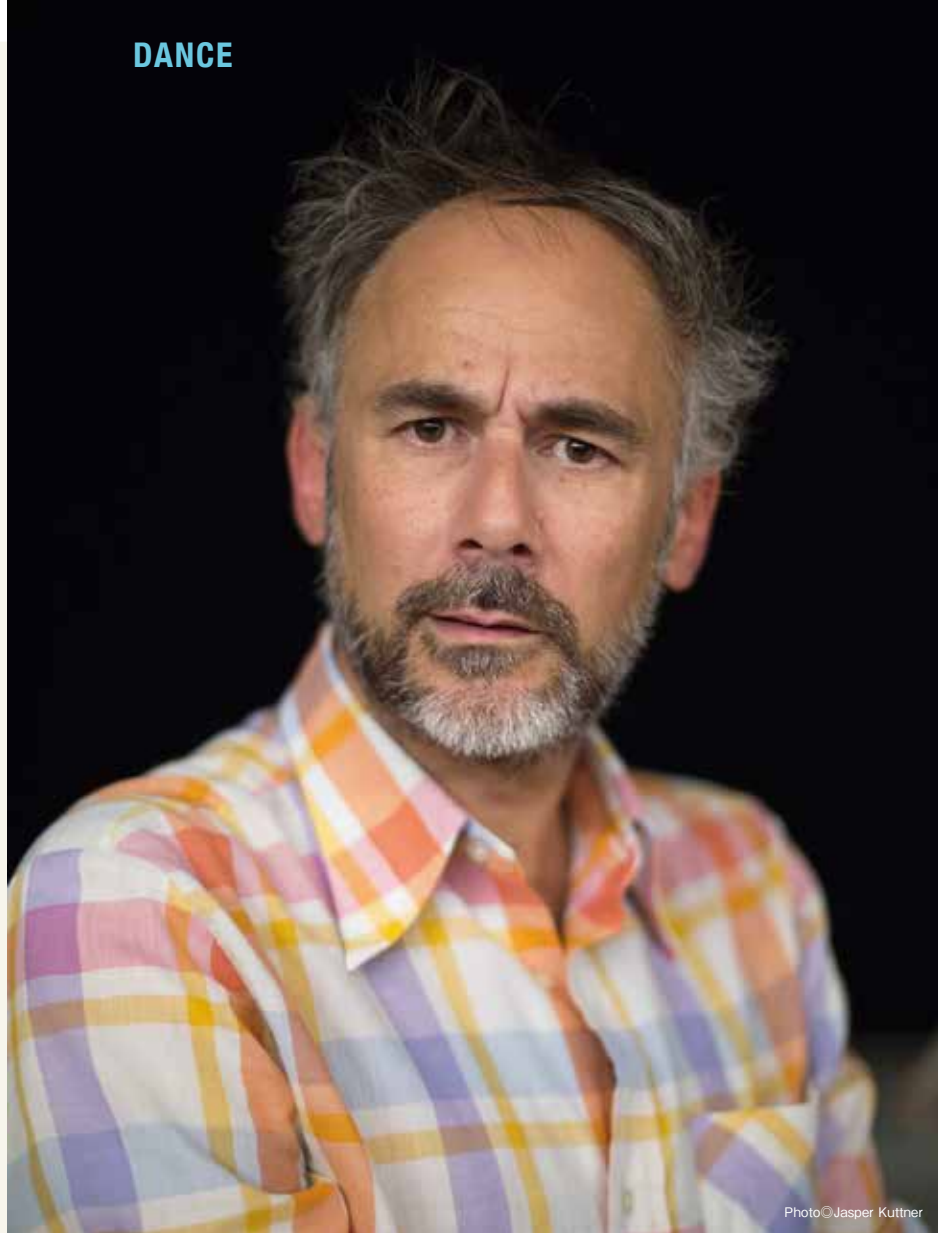
ジェローム・ベル（以下JB）：この作品タイトルに関して、関係があるとすればフランスで「学年末のガラ」と呼ばれているものになるでしょう。一般に、フランスのダンス学校は学年末に生徒たちが出演する舞台を準備します。これはダンスを学ぶ者たちが舞台上上がる瞬間であり、また、（ほぼ）プロとして舞台上に存在し、彼らがその能力の限界を超える瞬間でもあるのです。

—— 『Gala』を創作する直前に、ベルさんはプロのダンサーではなく、パリ郊外のセーヌ＝サン＝ドゥニの住民を対象としたワークショップを行われていました。このワークショップの成果が『Gala』として結実したのでしょうか？

ジェローム・ベル

Jérôme Bel

パリ在住の国際的に活躍する振付家。ダンスという表現ジャンルに社会的、批評的な眼差しを投げかける独自の作品で知られる。1995年に全裸のパフォーマーが登場する過激な作品『ジェローム・ベル』を発表し、それまでのダンスの概念を覆した。パリ・オペラ座から委嘱された『ヴェロニク・ドワノー』（2004）、アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルとの共作『3Abschiedドライアップシート（3つの別れ）』（2010）など話題作を次々と発表し、その挑発的な問いかけはダンス界に衝撃をもたらしている。彩の国さいたま芸術劇場には2011年に『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』（2001）で初登場。同作は2005年ニューヨーク公演においてベッシー賞を受賞。現在も初期作品から最新作に至るまで世界中で上演され、話題となっている。



Photo©Jasper Kuttner

ジェローム・ベル『Gala－ガラ』

Jérôme Bel GALA

喜びにあふれた多様性が、共同体を成立させる

独特のユーモア感覚と知的な挑発を絶妙に配合したダンス作品により、ジェローム・ベルは常に世界の観客を驚かせてきた。彩の国さいたま芸術劇場で上演した『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』から6年。満を持して、その続編とも言える『Gala－ガラ』が日本で集められたキャストとともに上演される。ベルは知的な計略に満ちたコンセプチュアルな作風の振付家として知られるが、踊ることの純粋な喜びを引き出すことも決して忘れない。世界が注目し続けるこの型破りな振付家はどのような舞台を届けてくれるのだろうか。

取材・文 ● 越智雄磨（ダンス研究）

JB：はい、間違いなくこの作品はサン＝ドゥニのダンスの未経験者、アマチュアと の作業の成果から生まれたものです。彼らの一部は、現在『Gala』のパリ・バージョンに出演しています。『Gala』が上演にこぎつけるには長いプロセスが必要でした。2年はかかったと思います。なぜなら、私が通常プログラムされるような実験的な演劇のフェスティバルやいわゆる「コンテンポラリー」と呼ばれるダンスの業界では、アマチュアリズムを受け入れない空気があったからです。ある人たちにとってみれば、アマチュアとは決して舞台の上に存在してはならない人のことであり、想定外 の存在でした。

多様な人々が共存する舞台

—— ダンスの素人やプロではない愛好者を出演者とする ことで、『Gala』では極めて多様な背景を持つ人々が同一の舞台上に共に存在しています。「多様性の共存」にこの作品の生命が賭けられていると言ってもよいと思います。ベルさんは、共同体に関してどのような考えを持って創作に臨むのでしょうか？ また、『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』（以下『ザ・ショー』）とはどのような違いがあるのでしょうか？

JB：私にとって、『Gala』と『ザ・ショー』の間には大きな違いがあります。まず『Gala』では『ザ・ショー』以上に出演者が

大いに踊ります。またダンサーへの指示もあまりありません。『ザ・ショー』の場合、出演者に対する指示が書かれてあり、出演者はコントロールもされていました。またかなりミニマルで尖った作品でもありました。『Gala』には出演者に向けて書かれた指示というものがほとんどありません。また、出演者たちはほとんどの部分を即興で踊っています。最終的に『Gala』は華々しく、同時にある批判を もたらんだフィナーレを迎えます。その批判とは、ダンスや社会における身体 の画一化や標準化に対して向けられたものです。しかし、この2つの作品はそれぞれ別の方法で、共同体の問題を扱っています。『ザ・ショー』では、共同体は各々のパフォーマーの個性や特異性を際立たせるものとして機能していました。『Gala』ではダンサーたちの多様性が、作品の中に共同体を成立させ、それを喜びにあふれたものとして活気づけていきます。—— 『Gala』は一つの共同体を生成すると同時に、舞台上で個々の出演者の存在感を際立たせている点も素晴らしいと思います。出演者たちはダンスのプロではないにもかかわらず、その存在のユニークさ、魅力に目を奪われてしまいます。この作品は、共同体と個人という両極的で時に矛盾する要素を調停しているように思われました。

JB：まさにその通りです。私の仕事は、共

同体と個人というこの手強い組み合わせを巡って展開しています。私にとって重要なのは、共同体が個人を疎外しないこと、また反対に個人が自身の属している共同体を妨害すべきではないということです。それに対してダンス的あるいは演劇的な解決策を探すことが私の仕事だと考えています。『Gala』では『ザ・ショー』のようにルールを作り出すポップ・ソングがあるわけではなく、出演者たちはより自立した存在です。『Gala』の第1部では出演者たちに対して何をすべきかを伝える紙が置かれていますが、第2部では、もはや私からの指示が舞台上にないことをお分かりいただけるでしょう。つまり、ある種の解放がここにはあります。出演者たちは彼ら自身のダンスを踊っているのです。

—— 『Gala』は現代の共同体に関する問題に触れていると思います。舞台上には出演者たちの様々なアイデンティティ、個性、身体性、文化的背景が同一化することなく共存しています。大げさに聞こえるかもしれませんが、多くの移民が住むパリ郊外でのリサーチやワークショップから誕生したこの作品は、経済格差や文化や価値観の違いによる対立が様々に生じている現代の困難に対応しているように思われました。私の中では、2015年にブリュッセルの劇場で『Gala』を観たことと、その後パリのバタ克蘭劇場、パリ郊外のスタッド・ド・フランスで同時多発テロが起こったことが合わせて記憶されています。このように対立が悲劇的な形で現実 起こっている以上、他者と向きあうこと、多様性が共存するための方法やヴィジョンについて思考することは、今まで以上にアクチュアルな課題だと感じています。

JB：そう思います。



Photo©Bernhard Müller

チケット発売中

ジェローム・ベル『Gala－ガラ』

2018年**1.20(土)・21(日)**開演**15:00**

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[構想・演出]ジェローム・ベル

チケット(税込) 一般 前売S席4,000円 A席3,000円

U-25* 前売S席2,500円 A席1,500円

メンバーズ 前売S席3,600円 A席2,700円

※当日券は各席種とも+500円

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内ができない場合がございます。予めご了承ください。

※U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

佐藤 隆夫さんの公演にはいつも良い“びっくり”をいただいています、『大野一雄について』は、「何が起きたんだろう!？」と驚きました。

川口 2010年ごろ、「体の外側と空間のことばかりやってきたけれど、もっと内側と動きを掘り下げたい」と思い始めたんです。そして2013年に新作を作る時、“大野一雄”の文字が啓示のように浮かんで(笑)。初めはレクチャーパフォーマンスを考えていましたが、ドラマトゥルグの飯名尚人さんに「取りあえず完コピしてみたら？」と言われて一カ月半取り組み、大野一雄さんの関係者の方々に見ていただきました。最初にお見せした舞踏家の武内靖彦さんから「大野一雄に近づいていても重ならない部分がある。それが川口隆夫なのではないか」と言われたのは、励みになり

ましたね。

佐藤 実際、体つきが全然違うのに、大野一雄の心のようなものが見えて、でも同時にすごく川口隆夫で、不思議でした。

川口 コピーする際、自分に課したルールは、ビデオだけを参照すること。大野さんの思想や感情を想像すると、自分の感覚に引き寄せてしまうので。でも、ビデオにも難しさがあって、例えば大野さんは首が全方向に行くのですが、僕は片方が曲がりにくい。そういう苦手な動きは、ビデオを見ても自分の中にレジストされないんです。だけどそれがないと“大野リズム”にならない。なので大野さんの動きをスケッチし始めました。普通は動きは一回覚えると再演は楽ですが、この作品は、感情を排してコピーしているだけに覚えていられない。いまだにスケッチは増え続けています。

伝説の前衛舞踊家を完コピする試み

川口隆夫『大野一雄について』

川口隆夫が大野一雄の記録ビデオを分析して動きだけを〈完全コピー〉し再現する試み『大野一雄について』を彩の国さいたま芸術劇場で上演。初演から4年の歳月を経てなお成長を続けるこの作品について、同劇場のプロデューサー佐藤まいみが聞く。

聞き手●佐藤まいみ (彩の国さいたま芸術劇場プロデューサー)

取材・文●高橋彩子 (舞踊・演劇ライター) Photo●山出高士



川口隆夫

Takao Kawaguchi

1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。並行して2000年よりソロ活動を開始。主な作品に『ディケノヴェスー見えないうえ』(2003)、『D.D.D.ー私の心臓はあと何回鼓動して止まるのか?』(2004-2007)、『グッド・ラック』(2008)、『TABLEMIND』(2011)。近年は『病める舞姫をテキストにー2つのソロダンス』(2012)、『大野一雄について』(2013)など舞踏についてのパフォーマンス作品を制作している。また東京国際レズビアン&ゲイ映画祭のディレクター (1996-99) を務めるなど、その活動は多岐に渡っている。



Photo©Bozzo

佐藤 今回の公演前のワークショップではその創作プロセスをシェアされましたね。

川口 海外でもやったのですが、舞踏は形ではなく心だと思っている参加者が怒って帰ってしまったことも(笑)。でも、舞踏と精神のあり方を考える上で、コピーという作業は興味深いレファレンスです。自分がしない・できない動きをなんとかしてやろうとする、この「なんとかして」は、踊りにとって大きな武器ですし、人の真似をする

と自分が見えてきますから。

佐藤 国内外で再演を重ねる中、どんなことを感じましたか？

川口 日本はもちろん海外でも「80年代にオオノを見た!」という人が観客にたくさんいて、面白いと言ってくれたのは嬉しかったですね。踊っている僕自身も、胸の辺りを押し広げてくれるようなgrateful(感謝)な感覚が出てきました。それが大野さんの感情なのかはわからないのだけれども。大野さんの踊りを観ていると、ある瞬間にぶわーっと涙が出てくるようなわけのわからなさがありますが、真似してみてもわかったのは、細かい動きが重なってサブリミナルのようになっていること。自分もそんな踊りができたらと思っています。

チケット発売中

川口隆夫『大野一雄について』

12.2(土)・3(日)開演15:00

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[コンセプト・演出・出演] 川口隆夫

[振付] 土方巽、大野一雄

[ドラマトゥルグ・サウンド・映像] 飯名尚人

チケット(税込) 全席自由

一般 前売3,000円 当日3,500円

U-25* 前売2,500円 当日3,000円

※当日券は現金精算のみ

[主催] NPO法人ダンスアーカイヴ構想

[共催] 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

／有限会社かんた

※ほか、関連プログラムあり 詳細はP.23

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

チケット発売中

平山素子(ダンス)×加藤訓子(パーカッション)
『DOPE』

2018年2.2(金)開演19:30

3(土)・4(日)開演14:00

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[演出・振付・ダンス] 平山素子

[音楽監督・パーカッション] 加藤訓子

[音楽] スティーヴ・ライヒ: ドラミング

チケット(税込) 全席指定

一般 前売4,500円 当日5,000円

メンバーズ 前売4,200円 当日5,000円 ほか

※当日券は現金精算のみ

[主催] NPO alfalfa

[共催] 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、

愛知県芸術劇場, kuniko kato arts project

[企画・製作] 愛知県芸術劇場

※愛知公演 2018年1月26日(金)〜28日(日)

愛知県芸術劇場小ホール

平山素子(ダンス)×加藤訓子(パーカッション)『DOPE』

平山素子 Interview

平山素子と加藤訓子の初顔あわせで『DOPE』の上演が決定した。

テーマはアメリカの現代作曲家スティーヴ・ライヒの初期代表作『ドラミング』。

同曲は、ローザスが全編を使用したダンス作品としても知られているが、

今回は、ライヒ自身からも絶賛を受ける

パーカッショニストの加藤訓子が音楽監督・演奏を務め、

独自の進化をし続けるダンサー・平山素子がソロパフォーマンスで対峙する。

聞き手●唐津絵理 (愛知県芸術劇場プロデューサー)



平山は初共演の加藤訓子、そして傑作『ドラミング』への挑戦にあたり、いつもとは違うアプローチを考察しているという。

「このお話をいただいた時、ちょうど自分の過去と現在、そして未来のことを考え、アーティストとしてどう進むべきか迷っていたんです。これまでは舞踊家・演出家・振付家の活動を並行してきましたが、様々な選択肢を探っていた時期でしたから、勇気をもって走り出すきっかけを求めています。私たちの世代は、『ドラミング』でアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル(ローザス)の音楽への良きアプローチの前例を観ています。ですから今回の壮大なチャレンジはとても不安でしたが、最初は“無理”と思うことも模索しながら乗り越えてきたので、これはアーティストとして強くなるために必要なプロセスだ！と自らを奮い立たせて取り組んでいます。

これまでソロは、体から出てきた泉のような源を動きに変換しながら、自分がどう感じるのかということに時間を費やしていました。そうすることで、“私らしい”特別なものができあがると思っていたからです。しかしこれでは甘えも出てしまいます。そ

こで、今回は自分の体から表出した動きのアイデアをいったん他のダンサーに渡し、それを客観的に眺めてから私自身に再度振り付けするという方法を考え、舞踊家・振付家として国内外で活躍中の小尻健太さんに協力していただき、“振り付け検証”を行いました。主にベースの動きに要素(スパイス)を加えて変化させていくといった手法の確認作業です。この検証を通して、発想の柔軟性を鍛えて体を準備し、訓子さんの演奏に鋭く反応し、動きの連鎖の性質を微妙に変化させていくという実演方法を目指しています。そして、ライヒの音楽世界を体に投影するというスリリングな世界を作ることができると信じています。結果の見えないとても実験的なダンスに飛び込むことになりましたが、皆様にはこのチャレンジを見逃さないでいただきたいと思っています。」

※DOPE…洋楽で使われる英俗語。本来は「麻薬」や「興奮剤」などを意味し、転じて「cool」と同じく「最高」「かっこいい」という意味で使われる。



Photo©Michiyuki Ohba

加藤訓子

ライヒの『ドラミング』はトランスで土着なイメージが強いのですが、今回の作品『DOPE』では、「都会的で洗練された格好良さ」または「ちょつとヤバく、きわどい感じ」に加え、スリリングかつドラッグ的な「危険」なイメージも垣間見せる作品になればと思っています。

作曲家が、意図する音楽的構造や効果を上手く表現できれば良いと思っています。スティーブもそれを期待しています。平山さんのダンスと舞台を共にすることで、日本初ドラミング! ダンス作品としてのグルーヴ感を存分にしたいと思います。

パヴェル・コレスニコフ (ピアノ)
Pavel Kolesnikov

1989年シベリア生まれ。モスクワ音楽院でS. ドレンスキーに、王立音楽大学 (RCM) でN. フィッシャーに、ブリュッセルのエリザベート王妃音楽院シャベルでM. J. ピリスに師事。2015～16年シーズンのベンジャミン・ブリテン財団フェロー、2014～16年BBCラジオ3「次世代アーティスト」。2012年、カナダのホーネンズ国際ピアノ・コンクール優勝。以来、カーネギーホール (ザンケル・ホール) やベルリンのコンツェルトハウスなどの主要ホールをはじめ、世界各地で演奏。ホーネンズ国際ピアノ・コンクール時のライブ録音 (ホーネンズ・レーベル) に加え、ハイペリオン・レーベルよりチャイコフスキーのピアノ作品全曲集及びショパンのマズルカ集がリリースされている。

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33

パヴェル・コレスニコフ

Interview

芸術家として誠実であれ、
そして、ベストを尽くせ、それが私の信条

星 (エトワール) のようにひとときわ輝く新鋭ピアニストが、
意欲的なプログラムを披露する「ピアノ・エトワール・シリーズ」。

1月には、パヴェル・コレスニコフが登場する。
モスクワとロンドンで学び、マリア・ジョアン・ピリスからも薫陶を受けたコレスニコフは、
イギリスを中心に高い評価を得ている今注目のピアニスト。
繊細な表現とこだわりぬいた音色で聴き手に大きな感銘を与える
“現代のピアノの詩人”の日本初リサイタルを前に、話をうかがった。

取材・文 ● 後藤菜穂子 (音楽ライター)

Photo ● Eva Vermandel

聴き手を引き込むピアノの音質へのこだわり

パヴェル・コレスニコフは音色のイマジネーションが限りなく豊かなピアニストだ。詩人があらゆる可能性の中からぴったりの言葉を選んで各行を紡いでいくように、彼は繊細なタッチで1音1音ぴったりの音色を探し当て、フレーズを、ハーモニーを紡いでいく。その表現は緻密に練られているが自由度が高い。先日、彼のショパンのリサイタルを聴いたが、静かな佇まいで鍵盤に向かい、音の陰影、フレーズの歌いまわし、和音の響かせ方などで、聴き手を自分のほうへ引き込む。

とりわけピアノの音のクオリティについてのこだわりは強く、この夏のBBCプロムスでのソロ・リサイタル (カドガン・ホール) では、1時間のオール・ショパンのプログラムの中で、前半と後半でヤマハのピアノのアクションを交換して話題を呼んだ。理由を聞いてみたが、前半の《幻想曲》はダイナミックな音の出るアクションで、後半のマズルカやワルツは繊細で反応のよいアクションで弾きたかったのだと言う。

「私にとってピアノの音質はきわめて大切な問題なのです。なぜなら音の響きというのは、演奏の好みに関係なく聴き手の感覚に直接入り込むものだと思うからです。演奏のスタイル、フレージング、テクニックなどはそのあとで感じる事なのです。私は古いベヒシュタインの音が好きなのですが、プロムスで使ったヤマハの2つ目のアクションはそれに近い音がして気に入っています」と話す。果たして、彩の国さいたま芸術劇場の公演ではどんなピアノを選ぶのか興味深いところだ。

師ピリスのように真摯かつオープンに

コレスニコフはロシアのノヴォシビルスク育ちだが、同国のエリート音楽教育を受けたわけではなく、モスクワの中央音楽学校出身でもない。むしろ、音楽好きの科学者の両親のもとで幼少よりのびのびと音楽を学び、8年ほどヴァイオリンとピアノの両方を習っていたが (どちらかというヴァイオリンのほうがメインだったそう)、やがてピアノに傾倒し専門的に勉強することにしたと言う。大学はモスクワ音楽院に進学したが、卒業後、ロンドンの王立音楽大学でノーマ・フィッシャーに師事した。

「モスクワでの学生時代はとても楽しかったのですが、自分にとってはいわゆるロシア流のピアノ奏法——腕の重力を使い、まろやかな音で歌うように弾く奏法——が合わないことはうすうす感じていました。それで卒業後、別の世界を経験したいと思い、ロンドンでフィッシャー先生に学びました。彼女からは手の筋肉の使い方などの技術的なことに加えて、音への違うアプローチ——よりクリアな音色、ロシア流とは異なるペダルの使い方など——を教わりました」

それと並行して彼はベルギーのエリザベート王妃音楽院シャベルにおいてマリア・ジョアン・ピリスの薫陶も受けた。たしかにコレスニコフのショパンにはピリスの影響が感じ取れる。

「ピリス先生から学んだ最も重要なことは、舞台上で観客といかにコミュニケーションを取るかということです。言葉では説明しづらいのですが、舞台の上で音楽を観客に伝える上で、自分がどんな立

ち位置を取るべきか、ということです。ピリス先生はきわめて控えめな方ですが芯は強く、舞台の上ではおそらく日常の彼女以上に心を開いて演奏していると思うのです。私自身も、そのように真摯かつオープンな姿勢で演奏することを目指しています」

演奏とは、自分と作曲家との対話

飛躍のきっかけとなったのは2012年、カナダのホーネンズ国際ピアノ・コンクールでの優勝だ。それまでいくつものコンクールに挑戦してうまくいかなかったため、失望のなか何も期待せず、とにかく最高の演奏をしようと思って受けたのが結果的によかったと言う。その後、BBCニュー・ジェネレーション・アーティスト (2014～16) にも選ばれ、急速に評価が高まっている。

来日は2度目。今回は2013年、大阪のいずみホールでオーギュスタン・デュメイ／関西フィルとの共演 (ショーソンの《コンセル》他) だったので、今回が日本での待望の初リサイタルとなる。

曲目はどれも彼がじっくり弾き込んできた作品だ。

「演奏とは、自分と作曲家の対話だと思っています。もちろん対話しやすい作曲家としにくい作曲家がいるわけですが。ショパンの場合、大規模な作品よりはマズルカやノクターンなどの小品のほうが対話しやすいですね。シューベルトは歌曲の伴奏や室内楽を弾いている時のほうが彼の存在を身近に感じますが、《楽興の時》などの独奏曲はなぜかとても難しく感じます。その中で

は、今回弾く初期のイ短調のピアノ・ソナタは親しみやすい曲です。シューマンも大好きな作曲家ですが、彼の作品を知るには時間をかける必要があります。《ヴィーンの謝肉祭の道化》は1年ほど取り組んでいますが、弾けば弾くほどその奥深さを実感しているところ です」

コレスニコフは最後にこう語った。「私の信条は、芸術家として可能な限り誠実であり、自分にできるベストを尽くすことです。私に関心のあるのはそのことだけです」と。師ピリスの影響もあるのかもしれないが、この競争の激しい音楽界にありながら、これだけピュアに言い切れる演奏家が今どれだけいるだろう。今回、彩の国さいたま芸術劇場での公演だけのための来日と聞いているので、1日限りのリサイタルをお聴きのがしなく！

チケット発売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33

パヴェル・コレスニコフ ピアノ・リサイタル

2018年1.27(土) 開演15:00

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】

シューベルト：《12のワルツ、17のレントラーと9つのエコーズ》D 145より
ピアノ・ソナタ イ短調 D 537
シューマン：ヴィーンの謝肉祭の道化 作品26
ショパン：即興曲第1番 変イ長調 作品29
ワルツ 変イ長調 作品69-1「告別」
ワルツ 嬰ハ短調 作品64-2
幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66 (遺作)
マズルカ集 より
幻想曲 ヘ短調 作品49
ワルツ 変ホ長調 作品18「華麗な大円舞曲」

チケット(税込) 一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象) 1,000円／メンバーズ 正面席3,200円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回 ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団

新春に味わう 和楽器の響き

お昼に気軽に音楽を楽しめると好評な、埼玉会館のランチタイム・コンサート。1月は、和楽器オーケストラ「日本音楽集団」のメンバーが、日本の音楽だけでなくフランス音楽も演奏する、雅でおしゃれな演奏会をお贈りする。和楽器は、身近なようでいて意外と知らないもの。和楽器のいろはを、日本音楽集団がご案内！

文●元永 拓 (日本音楽集団／尺八奏者)

首ふり3年ころ8年!?

尺八

竹で作られる縦笛で、紀元7世紀頃に雅楽の楽器として伝来しました。現在では真竹の根元を使い7つの節を含むように作り、一般的に前面に4つと背面に1つ、合計5つの指孔があります。標準的な長さは一尺八寸(約54.5cm)ですが、曲に合わせてさまざまな長さの尺八を使います。頭を上下に動かして音の高さを変えたり(首ふり)、ノイズ(雑音)を多く含んだ強い風のような音(むら息)を出すなど、多種の音色を使い自由自在に表現できるのが特徴です。虚無僧と呼ばれる僧侶が修行の道具として使っていた時代もありました。

横に構える管楽器

横笛

横に構えて吹く管楽器の総称で、りゅうてき 龍笛、のう 能管、篠笛などがあります。おもに雅楽で使われる龍笛は和楽器のさまざまな横笛の原型・祖先であると考えられていて、竹でできていて7つの指孔があり「舞い立ち昇る龍の鳴き声」と例えられます。能管は能や歌舞伎、お囃子で使われ、やはり竹でできていて7つの指孔があり、40cmほどの長さですが、西洋の音階はもちろん、日本のさまざまな音階とも異なる独特の音階を持っています。篠笛は篠竹で作る最も庶民的な笛で、祭囃子、歌舞伎、民謡など幅広い芸能で使われています。



チケット発売中

埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回 ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団

2018年1.11(木)開演12:10(終了予定 13:00)

埼玉会館 大ホール

【出演】遠藤悠紀(笛)、元永 拓(尺八)、久保田晶子(琵琶)、
養田弘大(三味線)、三宅礼子(箏)、久本桂子(十七絃)、盧 慶順(打楽器)
【曲目】「日本民謡 南から北へ」(花、お江戸日本橋、ソーラン節)、
宮城道雄：春の海、「平家物語」より、「幕間三重」(歌舞伎音楽)、
フランス音楽メドレー ほか

チケット(税込) 全席指定 1,000円

長唄や津軽など種類豊富

三味線

16世紀ころに当時の沖縄を経て大阪に伝わった中国の「三弦(サンシェン)」が、短い間に改良されてできたのが三味線です。和楽器の中では比較的新しい楽器ですが、長唄、地唄、常磐津、清元、新内、義太夫、津軽など、とても多くの種類があり、それぞれに特有の音楽で使われます。棹(ネック)の太さや、動物の皮を張った胴の大きさはさまざまですが、どの三味線も3本の絃を撥で弾いて演奏します。「ビーン」という音を鳴らして音色に味をつけて響きを変化させる「さわり」というしくみが大きな特徴で、独特の音色を作っています。

正倉院の宝物の楽器

琵琶

果物のピワと似た形をした木製の胴に4本、または5本の絃を張り、扇を半分開いたような形をした大きめの撥で弾いて演奏します。古代ペルシャが起源で日本に伝わったのは7世紀ころで、伝来当時の琵琶は今も正倉院に宝物として保管されています。五弦琵琶、楽琵琶、平家琵琶、盲僧琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶など多くの種類があり、それぞれに特有の音楽があります。とても個性的な音色を持つ琵琶は現代音楽にも多く用いられ、特に1967年に武満徹が作曲した、琵琶、尺八、オーケストラのための作品《ノヴェンバー・ステップス》が有名です。

ひもで締めるか、鉾でとめるか

太鼓

日本の太鼓や打楽器のことを「打ちもの」または「和太鼓」などと言います。日本には多くの太鼓がありますが、大きく分けて皮がひもで締められているものと、皮が鉾でとめられているものに分けられます。ひもで締めるタイプの太鼓には、バチで打つ締め太鼓や桶胴太鼓、「ヨー」「イヤー」とかけ声をかけながら手で打つ小鼓(単に鼓とも呼ばれる)や大鼓があります。最もよく知られているのは長胴太鼓(大太鼓、宮太鼓とも呼ばれる)という鉾打ちのタイプで、お祭りや神社などの行事でもよく使われます。

龍の形のような楽器

箏

日本古来の「こと」は和琴(わごん・やまとごと)と呼ばれる6絃の琴ですが、現在よく使われているのは13本の絃を持つ箏(こと)です。箏は奈良時代ころに中国から伝わり雅楽の中で使われていましたが、その後、僧侶の筑紫箏を経て、広く演奏されるようになりました。「琴柱」という山形のブリッジを動かして音の高さを決め、親指、人差し指、中指につけた「爪」というピックで弾いて音を鳴らします。現在では音域によって13絃、17絃、20絃など様々な大きさの箏が使われています。その形は龍になぞらえられ、箏の部分を「龍頭」「龍尾」などの名称で呼びます。

Report

EVENT



「1万人のゴールド・シアター2016」稽古風景 Photo©宮川舞子

ゴールド・アーツ・クラブ 活動開始!

ぐっと気温が下がり秋の気配が漂い始めた10月頭、彩の国さいたま芸術劇場の小ホールにて、「ゴールド・アーツ・クラブ」の説明会が開かれた。これは60歳以上を対象とした芸術クラブ活動で、演劇をはじめさまざまな舞台芸術のプログラムで表現活動を楽しんでもらおうというものだ。初年度となる今回はまず、昨年末に開催された高齢者による大群集劇「1万人のゴールド・シアター2016」の参加者を対象に募集。同公演に出演した約1,600名に発足のお知らせを送付したところ、1,000名を超える人たちが登録を希望したという。

説明会にやって来た人たちでいっぱいの劇場に入ると、「久しぶり！」と懐かしそうにかけよって挨拶を交わす人たちの姿。数カ月前に一大プロジェクトを乗り越えた(仲間)たちとの再会となったこの説明会は、彼らにとって、新たな船出の場でもある。

冒頭の挨拶では「1万人～」へ大きな反響があった旨と、参加者たちから「こういった活動をもっとやってみたい」という声が多かったことに触れ、このクラブ発足が劇場としての応答である説明がされた。高齢者劇団「さいたまゴールド・シアター」を率い

た蜷川幸雄が蒔いた種をさまざまな形に変化・発展させながら、世界へも発信していけるようなプロジェクトを進めたいという目標、そして「その方向を一緒に考えながら探ってください」という呼びかけに、多くの人たちが熱心に耳を傾けた。

アーツ・クラブ最初の活動は、「1万人～」を成功に導いたノゾエ征爾(脚本・演出)による演劇ワークショップ。1月から始まる同企画にはすでに、900名余りが参加を表明しており、熱心かつ活発な質疑応答が続いた。

説明会の中では、9月下旬に好評のうち幕を閉じた「世界ゴールド祭 キックオフ!」の報告も。シンポジウムにも参加した英国サドラーズ・ウェルズ劇場の「リリアン・ペイリス・アーツ・クラブ」も紹介され、30年近く続く長い歴史にも学びながら、日本に合うスタイルを模索していきたいというプランも語られた。なんと、ダンスや音楽活動にも広げていく構想もあるとか!

高齢社会の可能性を芸術によって探る、同劇場の新たな一歩に注目だ。

世界ゴールド祭 キックオフ！

2017年 9.21 (木)～24(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール ほか

熱い4日間を振り返る

この9月、来年開催される第一回「世界ゴールド祭」に向け、高齢者芸術に関するシンポジウム「世界ゴールド祭 キックオフ！」が彩の国さいたま芸術劇場で開催された。海を越えた英国から2つの劇場（団体）を招聘し、高齢社会において芸術文化がどのような役割を果たしうるか、海外の事例に学びながら可能性を探求。ワークショップも開催され、高齢者芸術を考える熱いやりとりが繰り返された。

取材・文●川添史子 Photo●宮川舞子



サドラーズ・ウェルズ劇場&カンパニー・オブ・エルダース

写真左から ジョス・ジャイルズ（ラーニング&エンゲージメント部門 ディレクター）
ルーシー・クラーク・ピショップ（ラーニング&エンゲージメント部門 プロジェクト・プロデューサー）
カンパニー・オブ・エルダースのメンバーたち（ベツィ・フィールド、カトリオーナ・マコール、クリス・ハヴェル）
シモーナ・スコット（カンパニー・オブ・エルダース リハーサル・ディレクター）



ラウンド・トーク

座長を務めた太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター長／主席研究員）



写真左から ノゾエ征爾（「1万人のゴールド・シアター2016」脚本・演出／脚本家・演出家・俳優・劇団「はえぎわ」主宰）
「1万人のゴールド・シアター2016」出演者（米山睦子、田野勝彦）

DAY 1 シンポジウム

事例1 | サドラーズ・ウェルズ劇場

事例2 | 彩の国さいたま芸術劇場

1日目のトップは、欧州随一のダンス専門劇場である英国「サドラーズ・ウェルズ劇場」。同劇場では「あらゆる人々の生活にダンスを」というビジョンで、さまざまな年齢や社会的バックグラウンドの人が「踊ってみたい」という気持ちを生かせる各種プログラムが組まれている。中でも60歳以上のダンサーで構成されている「カンパニー・オブ・エルダース」は1989年の設立以来、国内外に活躍の場を広げているとか。今回は、この革新的な高齢者ダンス・カンパニーから3人のダンサーも来日。参加する理由も、ダンス経験も、所属年数も違う彼らが、踊ることによっていかに人生が豊かになったかを語る生き生きとした表情が印象的だった。また同劇場では2014年から「エリクシール・フェスティバル」という、プロ・アマを問わず生涯踊り続けることに光を当てるダンスの祭典が開催されており、高齢者芸術の可能性が広がり続けていることを報告。同劇場の刺激的な試みに聴衆も熱心に耳を傾けていた。

この日は、平均年齢78歳の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」の軌跡と、昨年12月に行われた高齢者による大群集劇「1万人のゴールド・シアター2016」の創



エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場

写真左から デービッド・スレイター（エンテレキー・アーツ芸術監督）
ギャビン・バーロウ（オールバニー劇場 チーフ・エグゼクティブ兼芸術監督）

作の様子など、彩の国さいたま芸術劇場の取り組みも紹介。一つひとつのプロジェクトを進めながら形を模索しているという、劇場の現状と、今後への意気込みを話した。またゴールド・シアターの最新作、『薄い桃色のかたまり』（作・演出は岩松了）がこの日開幕。多くの人がシンポジウムとあわせて観劇した。

DAY 2 シンポジウム&ワークショップ

事例3 | エンテレキー・アーツ&オールバニー劇場
ラウンド・トーク

2日目は、参加型アートプロジェクトを展開する「エンテレキー・アーツ」と、その拠点劇場「オールバニー劇場」が、地域、行政、医療セクターといった組織も巻き込んだ先進的な活動をレポート。孤立した虚弱な高齢者のニーズに焦点をあてたアーツ・クラブ「ミート・ミー・アット・ザ・オールバニー」や、老人たちの隠された物語をあぶり出すプロジェクトなど、その内容は多様性に富み、なんとも興味深かった。ロンドン南東の地域社会にしっかりと根付いて、長期的な病気や障害を抱える人々、社会から疎外されかねない高齢の住民をつなぐ独自の手法を持つエンテレキー・アーツの活動は、超高齢社会



に突き進む日本にも多くの示唆を与えてくれる。早くから高齢者アートに取り組んできた英国の歴史、経験の豊富さを感じさせるシンポジウムで、客席からの質問がいつまでも続いたのも印象的だった。

シンポジウム後は、「カンパニー・オブ・エルダース」のワークショップが開催される、大練習室へ移動。誰でも無理なく参加できるようなゆるやかな動きの中に、ダンスの楽しさ、動きを発見する喜びが詰まった1時間！参加者30名はもちろん、見学者も自然に身体が動いてしまうような幸福感ある時間であった。

2日目の最後はラウンド・トークが開催され、シンポジウムに登壇した各劇場・団体のディレクターをパネリストに迎え、「高齢社会に輝きをもたらす、これからの劇場の在り方を考える」をテーマに語り合った。高齢者アートに携わるようになったきっかけ、高齢者と向き合う意義、社会的な意味合い、地域の人たちの関心と呼ぶ方法などなど……。限られた時間の中で多

くの意見が交わされ、お互いに学ぶ大切さを確認した。この日の最後に催されたレセプションでは、参加者同士が自由に意見交換、情報共有を行い、熱い2日目が笑顔の中で終わった。

DAY 3&4 ワークショップ

3・4日目は前日から引き続き「カンパニー・オブ・エルダース」のワークショップが開催され、60歳以上の約60名の参加者がダンスに汗をかいた。参加者の半数以上が初めてダンスに挑戦したが、皆とまどうことなく、思いっきり、表現する喜びに満ちた表情を見せてくれた。

*

こうして全4日間、高齢者芸術をめぐる熱いシンポジウム&ワークショップは閉幕。先進国の中でも最も速いスピードで高齢化が進む日本が、アートで輝く未来を想像できるような、手応えあるキックオフになったのではないだろうか。



シモーナ・スコットの指導で60歳以上の男女がダンスに挑戦。カンパニー・オブ・エルダースのメンバーとの質疑応答も。



Review

PLAY

吉川市が挑んだ、初めての市民劇『Y市のフシギな住人たち』観劇レビュー

この夏、埼玉県・吉川市民が中心となった初となる舞台が上演され多くの観客が詰めかけた。世代を越えたメンバーがともに汗をかきながら稽古し、ついに迎えた公演のレポートを送る。

取材・文●川添史子 Photo●宮川舞子



楽しい！が充滿したステージ

まだまだ夏の暑さが残る8月27日、吉川市中央公民館ホールにて吉川市演劇初舞台公演『Y市のフシギな住人たち』が上演された。これは、公募で集まった市民たちによる演劇公演。彩の国さいたま芸術劇場を拠点とした高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」に感銘を受け、吉川市によって企画・開催された市民劇で、スタッフ派遣などで同劇場の支援も受けながら市民劇団設立への一歩を踏み出した。

メンバーは、ほとんどが演劇未経験者。高校生から70代までの約25名が、毎週末と祝日に集まり、発声・歌唱・身体表現といった基礎練習から始め、約3カ月半の稽古を重ねてついにこの日を迎えた。

ホールに入ると、場内は超満員！ 開幕5分前、まだざわついている客席通路を行き交うのは白いカジュアルな服装の出演者たちだ。知り合いに手を振ったり、友人と

語らったり……麦わら帽子をかぶった男性が舞台上から「おーい！」と声を掛けると、〈普通の市民たち〉は〈俳優たち〉となって舞台へ上がり、リラックスした雰囲気ですぐに舞台がスタートした。

冒頭、ピアノ演奏に合わせ、ズラリと一列に並んだ出演者たちが歌ったのは「♪かまぼこ板しか興味がない〜」というユニークな歌詞の曲（青谷明日香《異端児の城》）。人には理解されにくい個性の大切さを、動きを交えながらユーモラスに元気よく正面を見て歌い上げ、全員の顔とキャラクターがしっかりと見えてきた。

『Y市のフシギな住人たち』は短編を組み合わせ、そこに歌やダンスも融合させたオムニバス作品。井上ひさしの『頭痛肩こり樋口一葉』からの抜粋や、岡田利規が狂言を現代の言葉に訳した『金津』といった既成戯曲の間に挟まれるのは、メンバーが吉川での生活について話したことから生まれたという、オリジナルのシーンだ。吉川市の市章が出てきたり、セリフになまがでてきたり（同市は「なまずの里」として知られているとか）、観客にとっても親しみやすいモチーフが散りばめられ、反応も上々。この土地で生活している人たちが、ここに住む家族や友人に、ちょっぴり、いつもと違う自分を披露する——。ポジティブな空気が充滿した終始楽しい舞台に、最後は大きな拍手が響いた。

来年へ向けての第一歩

中原恵人・吉川市長は数年前、蛭川に「吉川市に、さいたまゴールド・シアターの理念を受け継いだ劇団をつくりたい。高齢者に限らず、世代を超えた人々が集まる劇団にし、生きる意味を人生として表現したい」と伝え、「面白いね、それ。でも、いろいろ大変だよ」と言われたことが今企画立ち上げのきっかけと教えてくれた。それから6年間、市長自ら劇場見学やワークショップを積み重ね、この日のために情熱



を燃やし続けてきた。舞台の感想を聞くと「ほっとしたし、すごく感動しました。ある程度の合格点は天国の蛭川先生からいただけたのではないのでしょうか。何年も準備してきて迎えた公演ですし、メンバーたちを仲間みたいな気持ちで見守ってしまいました（笑）。『やったよね！』と全員とハイタッチして乾杯したい気持ち」と語る。

演出を手掛けた石内詠子は「メンバーとお話をしているうちに、皆さんが吉川市のことがとっても好きなんだということが分かってきたんです。そこから、この人たちの話を挟み込んでまとめようというアイデアが見つかりました」と話す。石内はかつて蛭川が率いた「NINAGAWA STUDIO」に所属していたこともあり、同集団で行われたエチュード発表や、それを元にしたオムニバス公演『待つ』シリーズが頭にあったという。とはいえ、市民劇を演出するのは初めて。「普段お仕事をされている方が多いので、なかなか全員が集結できなくてヒヤヒヤしましたが（笑）、いい結果にたどりつけたんじゃないでしょうか。プロの感性では真似できない味も出ていて、皆さんらしい舞台になっていたと思います」とホッとした表情を見せる。

舞台に出演した70代の女性は「別の人

になるということは、ものすごく楽しい経験でした。すっかりやみつきです」と顔を輝かせる。「プロの方たちによる照明や音響が入ると、こんなに舞台が立体的になるんだと感動しました」と笑顔を見せたのは、40代の女性。「でも、自分のことよりも子どもが心配で（笑）」と話し、特別出演として参加した小学3年生の息子を指差す。親子で舞台に出た経験は、一生の思い出になったようだ。その男の子に感想を聞くと「来年もやりたい！」と大きな声で即答し、館内ロビーに駆けていった。新しい市民劇団の種が、小さな身体にも蒔かれたようではほえましい。

なお、県の財団である埼玉県芸術文化振興財団は、他市からの協力要請も受けており、今後とも支援の輪を広げていく予定である。埼玉各地での動きにも注目だ。

『Y市のフシギな住人たち』

井上ひさし（『頭痛肩こり樋口一葉』より抜粋）
狂言『金津』（岡田利規訳）ほか

【日時】2017年8月27日（日）開演15:30
【会場】吉川市中央公民館ホール
【構成・演出】石内詠子
【歌唱指導】泉 忠道
【振付】城 俊彦
【出演】公募による吉川市民
【主催】吉川市教育委員会
【制作協力】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団



Review

レビュー

MUSIC

大塚直哉レクチャー・コンサート ポジティブ・オルガン in アンサンブル 8.27(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

大練習室で行われてきたオルガン・レクチャーを音楽ホールに会場を移し、演奏をメインにリニューアルして開催。バロック・ヴァイオリン大西律子、荒木優子、バロック・チェロ高橋弘治を迎え、大塚直哉のオルガン演奏と解説を楽しんだ。バッハ《組曲》で始まったのち、オルガンはパッヘルベル《カノン》では3番ヴァイオリン・パートを、コレルリ《トリオ・ソナタ》ではチェロとほぼ同じ動きを、サンマルティニ《オルガン協奏曲》ではソロを演奏し、アンサンブルでのオルガンの役割の違いを聴かせた。後半は弦楽器奏者の話を交え、最後はモーツァルト《教会ソナタ》を。オルガンにますます興味が湧くレクチャー・コンサートだった。



Photo©加藤英弘

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第11回 吉野直子 ハープ・リサイタル 9.16(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

ハープの表現の多様性を伝えてくれた圧巻のリサイタル。バッハ《シャコンヌ》は無伴奏ヴァイオリン曲だが、ハープ演奏では低音が加わることで各変奏が表情豊かに。ブラームス《間奏曲》はピアノ曲よりも優美な響きにうっとり。編曲ものの2作を楽しんだ後、フォーレ《塔の中の王妃》は前2曲と音世界が明らかに変わり、ハープならではの多彩で幻想的な響きに。クシェネク《ソナタ》は20世紀半ばのハープ曲の可能性を示し、武満徹《スタンザII》は音風景のひとつとしてハープが鳴り響く。吉松隆《ライラ小景》は作曲家が語るとおり「銀河鉄道の夜」を音で聴くよう。ルニエ《ピエス・サンフォニック》はハープの技術と表現力を存分に聴かせてくれた。



Photo©加藤英弘

PLAY

さいたまゴールド・シアター 『薄い桃色のかたまり』 9.21(木)～10.1(日) 彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)

物語の舞台は、大震災から6年が経ち、避難指示解除となった小さな町。復興本社と現地の温度差、人間がいけない間にさばったイノシシによって、復興への道は険しい。自殺者が出るなど被災地のシビアな現状を写しながら、若者たちのもどかしい恋、線路の復旧作業に励む男たちと、岩松の描き出す劇世界には、人間の身体底からわき上がるようなエネルギーが渦巻いた。蜷川幸雄の急逝後初の書き下ろしに挑んだゴールドはダンスにも挑み(井手茂太振付)、ますますパワフル。共演したさいたまネクスト・シアターも負けじと熱量ある演技を見せた。フィナーレ、満開の桜並木は蜷川へのオマージュにも見えた。



Photo©宮川舞子

MUSIC

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業 埼玉会館ランチタイム・コンサート第32回 ウェールズ弦楽四重奏団 9.22(金) 埼玉会館 大ホール

ミュンヘンARD国際音楽コンクール第3位入賞を果たし注目を集めるウェールズ弦楽四重奏団。結成から丸10年経ち、11年目を歩む節目の年に埼玉会館リニューアル・オープン記念に出演することの喜びを語ったのち演奏へ。ハイドンは冒頭から息もぴったりで、澄んだ明るい響きが美しく、第2楽章は第1ヴァイオリンのしっとりした歌と第2ヴァイオリンの音の綾が心に響く。第4楽章の変奏曲は繊細に聴かせた。次の曲はシューベルト「死と乙女」より第1・2・4楽章。ヴィブラートを抑えた、ささやくような響きが新鮮で、有名な第2楽章は限界まで絞った弱音に息を呑む。第3楽章も聴きたくなる充実のランチタイム・コンサートだった。



Photo©加藤英弘

MUSIC

アンサンブル・ウィーン=ベルリン 9.30(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

世界的な木管楽器奏者が集結したアンサンブルの演奏はすべてがミラクルで、歌心に満ちた音、複数の楽器が溶け合う音色に酔いしれた。バルトーク《ルーマニア民族舞曲》では各楽器がソロを聴かせ、ヒンデミット、リゲティでは見事なテクニックとリズム感で魅せた。ドビュッシー《子どもの領分》は色彩感が見事で、元のピアノ曲よりも表情豊か。フランス《木管五重奏曲》も彼らならではの音楽性と超絶技巧に圧倒された。白眉はベリオ《オーバス・ナンバー・ズー》で、演奏だけでなく、日本語による語りと迫真の演技に大喝采。終演後は、地元高校生のためのクリニックを開催。スーパープレイヤーの指導を受ける夢のような時間となった。



Photo©加藤英弘

MUSIC

埼玉会館リニューアル・オープン記念事業 NHK交響楽団 リオ・クオクマン(指揮) 小曾根 真(ピアノ) 10.7(土) 埼玉会館 大ホール

2年ぶりのN響埼玉公演を指揮したのは、N響と初共演のリオ・クオクマン。《ルスランとリュドミラ》序曲では重量感ある低音と華やかな高音を対比させ、躍動的な音楽を聴かせた。続いてジャズピアニスト小曾根真と共にプロコフィエフのピアノ協奏曲第3番を。特に第2楽章でジャズの濃厚な香りが漂い、小曾根は管楽器奏者とアイコンタクトを取りながら演奏。管楽器のメロディも歌に満ち、小曾根との“音の会話”の楽しさが客席にも伝わってきた。休憩後は、小曾根とクオクマンの信頼関係が見て取れる、2人の楽しいミニ・トークののち、ドヴォルザークの交響曲第8番。チェコの風景が見えるようなみずみずしくも力強い演奏で魅了した。



Photo©加藤英弘

Event Calendar

イベントカレンダー 11.15 - 2018.1.31

PLAY DANCE MUSIC CINEMA

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ = 彩の国さいたま芸術劇場

お子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

12.15(金)
-29(金)

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

大ホール

12.15(金) 18:30	23(土・祝) 13:30 / 18:30
16(土) 13:30 / 18:30	24(日) 13:30
17(日) 13:30	25(月) 休 演
18(月) 休 演	26(火) 13:30 / 18:30
19(火) 13:30	27(水) 13:30
20(水) 13:30 / 18:30	28(木) 13:30 / 18:30
21(木) 13:30	29(金) 13:30
22(金) 13:30	詳細はP.3-5

2018
1.27(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家たい平とおすすめ若手落語会

小ホール

開演15:00 詳細はP.21

DANCE

12.2(土)
3(日)

川口隆夫
『大野一雄について』

小ホール

2(土)・3(日)開演15:00 詳細はP.8

2018
1.20(土)
21(日)

ジェローム・ベル『Galaーガラ』

大ホール

20(土)・21(日)開演15:00 詳細はP.6-7

MUSIC

11.19(日)

レオニダス・カヴァコス
ヴァイオリン・リサイタル

音楽ホール

開演15:00 詳細はP.21

12.17(日)

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第12回
工藤重典 フルート・リサイタル

音楽ホール

開演15:00 詳細はP.21

12.23(土・祝)

光の庭プロムナード・コンサート第96回
トワイライト・スペシャル クリスマスに聴く名曲集

キャンドル・アート・ナイトとの共同開催で、
光の庭にキャンドルが灯る幻想的な雰囲気の中、
オルガンとトランペットとのアンサンブルをお楽しみいただけます。

情報プラザ

開演17:00 ※入場無料

【出演】 富田真希(オルガン)、神代 修(トランペット)

【曲目】 J. S. バッハ＝グノー：アヴェ・マリア

モーツァルト：モテット《踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ》より
〈エクスルターテ〉〈アレルヤ〉

水野 均 編曲：クリスマスキャロル・メドレー ほか

※開演時間が通常と異なりますのでご注意ください。

2018
1.6(土)

彩の国バリアフリーコンサート
『奏 音のかなた』

小ホール

開演14:30 詳細はP.22

2018
1.11(木)

埼玉県館ランチャタイム・コンサート第33回
ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団

埼玉県館 大ホール 開演12:10(終了予定13:00) 詳細はP.12

2018
1.20(土)

光の庭プロムナード・コンサート第97回
情報プラザ 開演14:00 ※入場無料

【出演】 大塚直哉(オルガン)、尾崎温子(バロック・オーボエ)

曲目調整中

2018
1.27(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.33
パヴェル・コレスニコフ
ピアノ・リサイタル

音楽ホール

開演15:00 詳細はP.10-11

CINEMA

彩の国シネマスタジオ

【全席自由・各回入替制・整理券制】

大人1,000円 / 学生500円 [入場時に学生証をご提示ください]

※料金は当日現金支払いのみ

12.6(水)～10(日) 映像ホール

『しあわせな人生の選択』

(2015年 / スペイン・アルゼンチン / 108分)

【監督・脚本】 セスク・ゲイ

【出演】 リカルド・ダリン、ハビエル・カマラ、ドロレス・フォンシ ほか

6(水)～9(土) 10:30 / 14:00 / 18:00

10(日) 10:30 / 14:00



© IMPOSSIBLE FILMS, S.L. / TRUMANFILM A.I.E. / BD CINE S.R.L. 2015

12.21(木)・22(金) 埼玉会館小ホール

埼玉が生んだ女優 三宅邦子～小津安二郎監督作品選～〈最終回〉

『秋刀魚の味』(1962年 / 日本 / 113分)

【監督】 小津安二郎

【出演】 岩下志麻、笠 智衆、佐田啓二 ほか

21(木)・22(金) 10:30 / 14:00

※21(木) 14:00の回終了後、佐藤忠男氏(映画評論家)によるアフタートークあり



©1962 松竹株式会社

2018.1.5(金)～8(月・祝) 映像ホール

『わすれな草』(2013年 / ドイツ / 88分)

【監督・脚本】 ダーヴィット・ジーヴェキング

【出演】 グレーテル・ジーヴェキング、マルテ・ジーヴェキング ほか

5(金)～7(日) 10:30 / 14:00 / 18:00

8(月・祝) 10:30 / 14:00

※6(土) 14:00の回終了後、字幕翻訳を担当した渋谷哲也氏(ドイツ映画研究者 / 東京国際大学教授)によるアフタートークあり



©Lichtblick Media GmbH

2018.1.25(木)～28(日) 映像ホール

『光をくれた人』

(2016年 / アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド / 133分)

【監督・脚本】 テレク・シアンフランス

【出演】 マイケル・ファスベンダー、アリシア・ヴィキャンデル、
レイチェル・ワイズ、ブライアン・ブラウン、ジャック・トンプソン ほか

25(木)～27(土) 10:30 / 14:00 / 18:00

28(日) 10:30 / 14:00



©2016 STORYTELLER DISTRIBUTION CO., LLC

Tickets

チケット

PLAY DANCE MUSIC

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ = 彩の国さいたま芸術劇場

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

発売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ第33弾
『アテネのタイモン』

詳細はP.3-5

発売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家たい平とおすすめ若手落語会

2018年1.27(土) 15:00 小ホール

【出演】 林家たい平(ゲスト)、柳家一琴、
春風亭昇也、三遊亭わん丈

チケット(税込) 全席指定 一般3,000円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

メンバーズ 2,700円

発売日 一般 11.18(土) メンバーズ 発売中

蜷川幸雄三回忌追悼公演

『ムサン』

2018年3.3(土)～11(日) 大ホール

3	3	4	5	6	7	8	9	10	11
土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:00	●							●	●
13:30									
18:00	●							●	
18:30									

【作】 井上ひさし(吉川英治「宮本武蔵」より)

【演出】 蜷川幸雄 【音楽】 宮川彬良

【出演】 藤原竜也、満端淳平、鈴木 杏、

六平直政、吉田鋼太郎、白石加代子

大石継太、塚本幸男、飯田邦博、堀 文明、井面猛志

チケット(税込) 一般 S席10,500円 A席8,500円

U-25(25歳以下対象・前売のみ取扱・当日引換券・要証明書) 5,000円

※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。

発売日 一般 2018年1.27(土) メンバーズ 1.20(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家正蔵と特選落語家競演会

2018年4.14(土) 14:00 小ホール

【出演】 林家正蔵(ゲスト) ほか

チケット(税込) 全席指定 一般3,000円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

メンバーズ 2,700円

DANCE

発売中

川口隆夫

『大野一雄について』 詳細はP.8

発売中

ジェローム・ベル
『Galaーガラ』 詳細はP.6-7

発売中

平山素子(ダンス)×加藤訓子(パーカッション)
『DOPE』 詳細はP.9

発売中

Noism1
『NINAー物質化する生け贄』

2018年2.17(土) 17:00、18(日) 15:00 大ホール

【演出振付】 金森 穰 【出演】 Noism1

チケット(税込) 全席指定 一般5,500円

U-25*(枚数制限あり) 3,500円

【主催】 公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

【共催】 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

MUSIC

発売中

レオニダス・カヴァコス
ヴァイオリン・リサイタル

11.19(日) 15:00 音楽ホール

【出演】 レオニダス・カヴァコス(ヴァイオリン)、

エンリコ・パーチェ(ピアノ)

【曲目】 ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ

シュベルト：ヴァイオリンとピアノのための幻想曲 ハ長調 D 934

メシアン：主題と変奏

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第10番 ト長調 作品96

チケット(税込)

一般 正面席 7,000円 バルコニー席 6,000円

U-25*(バルコニー席対象) 3,000円

メンバーズ 正面席 6,300円

発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画

「次代へ伝えたい名曲」第12回

工藤重典 フルート・リサイタル

12.17(日) 15:00 音楽ホール

【出演】 工藤重典(フルート)、長崎麻里香(ピアノ)

【曲目】 ベートーヴェン(ドゥルエ編曲)：ソナタト長調 作品30-3

ダマーズ：バイザー・ジュ・フルートとピアノのための9つの小品

フランク：ソナタ イ長調

チケット(税込)

一般 正面席 4,000円 バルコニー席 3,000円

U-25*(バルコニー席対象) 1,500円

メンバーズ 正面席 3,600円

※12月16日(土)「フルート公開レッスン」開催(聴講生募集中)

次頁へ続く

Tickets チケット

MUSIC

発売中

彩の国バリアフリーコンサート 『奏 音のかなた』

2018年**1.6(土) 14:30** 小ホール

【出演】智内威雄(ピアニスト)、
スティールパンバンドPele(主宰 出口雅生)、
坂田 明(サックスプレーヤー)
【曲目】
第1部 智内威雄ステージ
左手のための2つの小品「前奏曲と夜想曲」(スクリアービン 作曲)
「左手のためのバッハ小前奏曲集」より(左手のアーカイブ 編曲) ほか
第2部 Steelpan Band Pele ステージ
パン・イン・ハーモニー(ロード・キチナー 作詞作曲)
上を向いて歩こう(永 六輔 作詞、中村八大 作曲) ほか
第3部 坂田 明ステージ
赤とんぼ(山田耕筰 作曲)
音戸の舟唄(広島県民謡)
Dance(坂田 明 作曲) ほか
第4部 フィナーレ

チケット(税込) 全席指定 一般1,000円 障がい者割引500円
【主催】埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会
【共催】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、
埼玉県障害者交流センター(社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団)
【公演の内容・鑑賞に関するお問合わせ】
埼玉県福祉部障害者福祉推進課 048-830-3312
※年末年始期間のチケットご購入についてはP.23をご確認ください。

発売中

埼玉会館ランチタイム・コンサート第33回 ニューイヤー・スペシャル 日本音楽集団

 詳細はP.12

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.33 パヴェル・コレスニコフ ピアノ・リサイタル

 詳細はP.10-11

発売中

マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル

2018年**3.21(水・祝) 15:00** 音楽ホール

【曲目】J. S. バッハ：フランス組曲 第6番 ホ長調 BWV 817
シュペールト：即興曲集 D 935 (作品142)
モーツァルト：ロンド イ短調 KV 511
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第32番 ハ短調 作品111

チケット(税込)
一般 正面席10,000円／メンバーズ 正面席9,000円
※バルコニー席・U-25は予定枚数終了

発売日 一般 **12.3(日)** メンバーズ **12.2(土)**

埼玉会館ランチタイム・コンサート第34回 金管五重奏団 Buzz Five

2018年**3.6(火) 12:10**(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール
【出演】上田じん、松山 萌(トランペット)、友田雅美(ホルン)、
加藤直明(トロンボーン)、石丸薫恵(チューバ)
【曲目】滝 廉太郎：花
アンダーソン：トランペット吹きの休日
チータム：〈プラスメナジェリー〉より ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 **12.16(土)** メンバーズ **12.9(土)**

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第13回 モルゴア・カルテット

2018年**5.12(土) 15:00** 音楽ホール

【出演】荒井英治、戸澤哲夫(ヴァイオリン)、
小野富士(ヴィオラ)、藤森亮一(チェロ)
【曲目】ハイドン：弦楽四重奏曲ト長調 作品33-5「ごきげんいかが」
メタリカ(編曲:荒井英治)：メタル・マスター (Master of Puppets) ほか
チケット(税込)
一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円
メンバーズ 正面席3,600円
※2018年4月1日(土)関連プログラムあり(要事前申込み)

発売日 一般 2018年**1.7(日)** メンバーズ **1.6(土)**

2018年度ピアノ・エトワール・シリーズ 3公演セット券 Vol.34 シャルル・リシャール=アムラン Vol.35 ダニエル・シュエ Vol.36 レミ・ジュニエ

音楽ホール

【日時・曲目】

【Vol.34 シャルル・リシャール=アムラン】

2018年**6.10(日) 15:00**

モーツァルト：幻想曲 二短調 KV 397
ショパン：バラード第1番～第4番 ほか

【Vol.35 ダニエル・シュエ】

2018年**10.28(日) 15:00**

曲目調整中

【Vol.36 レミ・ジュニエ】

2019年**1.12(土) 15:00**

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番 ヘ短調「熱情」作品57
ストラヴィンスキー：ペトルーシュカからの3楽章 ほか

チケット(税込)
【3公演セット券】
一般・メンバーズ 正面席9,000円
バルコニー席7,500円 U-25*(バルコニー席対象)3,000円
【Vols.34～36】各回
一般 正面席3,500円 メンバーズ 正面席3,200円
バルコニー席2,500円 U-25*(バルコニー席対象)1,000円

TICKET

インターネット



埼玉県芸術文化振興財団
オンラインチケット



【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ

登録のご住所へ無料配送

一般

【クレジットカード決済】
または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

※チケット代の他に、店頭発券手数料
(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)

※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ

登録のご住所へ無料配送

一般

【クレジットカード決済】
または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
※コンビニ支払い後のチケット配送も承りますが、チケット代のはかに配送料
(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)
で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取
もできます(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ

【口座引落】

一般

【現金】または
【クレジットカード決済】

その場で
チケットを
お渡します。
※手数料は
かかりません。

川口隆夫『大野一雄について』 関連プログラム開催

ダンスアーカイヴの活用から生まれた作品、川口隆夫『大野一雄について』の上演(12月2日・3日)にあわせて関連プログラムを開催いたします。初公開の資料や貴重な映像をご覧いただける機会です。公演と共に楽しみください。

展示「モダンダンスから舞踏へ」

大野一雄の写真、ポスター、草稿などのアーカイヴ資料を展示します。特別展示として、「舞踏」前夜のモダンダンス作品「老人と海」(1959年)のオープンリール音源デジタルリマスター、当時大野一雄がヘミングウェイに宛てた書簡原稿等を初公開。

【会期】12月3日(日)まで 9:00～22:00(休館日を除く)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場
ガレリア ※入場無料



大野一雄直筆ノート

大野一雄アーカイヴ映像上映

川口隆夫『大野一雄について』の出典となる、大野一雄のモノクロ映画「O氏の肖像」(1969年)と「ラ・アルヘンチーナ頌」(1977年)初演映像を上映。20世紀舞踊の歴史的映像です。デジタルリマスターからのDVDとBlu-rayによる上映です。

【日時】
12月2日(土) 13:00～14:10「O氏の肖像」(1969年)
12月3日(日) 13:00～14:10「ラ・アルヘンチーナ頌」初演(1977年)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
※12月2日、3日いずれかの「大野一雄について」公演チケットで両日の上映を鑑賞いただけます。映像ホール入口でチケットをご提示下さい。
 公演詳細はP.8



Photo Naoya Ikegami

チケット送付方法変更のご案内

ヤマト運輸株のセキュリティパッケージにて送付しておりました購入チケットは、2017年12月末での同サービス終了に伴い、日本郵便株の「簡易書留」に順次変更いたします。送付方法変更に伴う送料の変更はございません(1件400円／メンバーズは無料)。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

INFORMATION

年末年始の休業について

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館の施設利用及びチケット販売について下記の通り休業いたします。
何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

施設のスケジュール

	12月28日(木)	12月29日(金)	12月30日(土)～2018年1月3日(水)	2018年1月4日(木)
彩の国さいたま芸術劇場	通常営業		休 館	通常営業
埼 玉 会 館	通常営業		休 館	通常営業

チケット販売

	12月28日(木)	12月29日(金)	12月30日(土)～2018年1月3日(水)	2018年1月4日(木)
彩の国さいたま芸術劇場内 チケットセンター (窓口販売・電話受付)	10:00～19:00		休館のため休業いたします	10:00～19:00
埼 玉 会 館	10:00～19:00		休館のため休業いたします	10:00～19:00
インターネットチケット販売 【SAF オンラインチケット】	24時間ご利用になれます ※12月29日(金)16時以降のお申込みにおいて、お渡し方法【配送】でのご予約チケットは、 2018年1月4日(木)の発送となります。			

※「彩の国バリアフリーコンサート(2018年1月6日開催)」につきましては、2017年12月29日(金)16時以降のお申込み分はすべて公演当日会場でのお渡しとなります(開演1時間前より受付開始)。何卒ご了承ください。
※メンバーズ事務局(TEL: 048-858-5507)につきましては、12月30日(土)～2018年1月3日(水)は休業いたしますので、2018年1月4日(木)10時以降にお問い合わせくださいますようお願いいたします。

謹 告

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.32 ケイト・リウ ピアノ・リサイタル 公演中止

11月に来日を予定しておりましたケイト・リウ氏は、肩から腕にかけての激しい痛みのため、担当医師から演奏活動を控えるようにとの診断を受けました。
11月11日(土)に予定しておりました「ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.32 ケイト・リウ ピアノ・リサイタル」につきましては、誠に残念ながら公演を中止といたしました。
公演を楽しみにして下さった皆様にお詫び申し上げますとともに、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。
【お問合わせ】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 事業部 制作・営業担当グループ
048-858-5507(休館日を除く10:00～19:00)

サ ポ ー タ ー 会 員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。
こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2017.10.25現在／一部未掲載)

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー㈱／㈱タムロン／㈱十萬石ふくさや／森平舞台機構㈱
東芝エルティエーエンジニアリング㈱／埼玉トヨタ自動車㈱／㈱齋賀設計工務／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルピーノ村／国際照明㈱
埼玉スバル／㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国 S P グループ
㈱ブラネッツ／㈱デサン／セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所
㈱埼玉交通／サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱／五光印刷㈱／旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス
㈱クリーン工房／㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱総合舞台／(一財)さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス
㈱NEWSエンターテインメント／オーガスアリーナ㈱／イープラス／六三四堂印刷㈱／(医)櫻会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山粋会 山崎整形外科
サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社／㈱セノン／ショッパー／㈱松尾楽器商会／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／㈱川口自動車交通
㈱ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや／㈱杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄㈱ヨコハマタイヤジャパン
NTT東日本 埼玉事業部／チャコット㈱／㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくら Music Office／クワバラ・バンぶキン／駒橋内科医院
東和アークス㈱／テレビ埼玉／日本ビストンリング㈱／金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社)埼玉県経営者協会
㈱コマーム／㈱原一探偵事務所／飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫／㈱和幸楽器／淑徳与野中学・高等学校／新日本ハウス㈱／大栄不動産㈱
相川宗一／㈱ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／AGS㈱／㈱ジャスト／㈱ワイイーシーソリューションズ
白神久吉／医療法人青木会

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



画●磯良一

この電信柱と結婚しちゃうから

文●岩松 了

誰にも忘れ難い光景というものがあるだろう。多くは我が身に関わりのあることではないかと思うが、ここに記すのは、もう30年くらい前のある夜に目撃した光景で、私自身は完全な傍観者、通りすがりの人間にすぎない。今もありありと覚えている、どころか、折りあらばドラマの一場面として使いたいと思いつけている。

私は駅から自宅までの道を歩いていた。夜も更けて人通りも少ない。足音だけがコツコツ響く、そんな郊外の住宅地に入るあたり。私の前をじゃれ合うように歩いている二人連れが見えてきた。手をつないでいるが、何だか引っ張り合うような奇妙な動き。一人は背広姿、もう一人はカジュアルな上下。私はしだいに二人に追いつくような具合になってきた。と、聞こえてきた背広姿の男の声。

「この電信柱と結婚しちゃうから」

え？ 何だって？ 電信柱と結婚する？

私は少し前から気づいていた。背広の男よりちょっとばかり背の高いカジュアルな上下の者が、女ではなく男であることに。男二人が手をつなぎ、もつれ合うようにして夜道を歩いていたのだ。しかも二人は追い越そうとする私に全く関知せぬ。背広の男は関係を続けたい。が、カジュアルが関係を清算しようと切りだした、おそらくは結婚して普通の家庭を築くために。その冷ややかな言葉に対抗するために、背広の男が言ったのだ。ならばこの私は、「この電信柱と結婚しちゃうから」！

二人はそれぞれの人生のことで精いっぱいだから、通り過ぎる者など何かの影に過ぎない。こんなに胸がドキドキしているなどと言ったところで、所詮は実体を伴わぬ影。その胸のドキドキが二人にいかほどの影響力をもとうか!? 私にもこんな経験があると言いたくとも今の二人に聞く耳などない。追い越した私は、今一度この目にあの二人の姿を焼き付けようと振り返った。すると、電信柱の外灯の下で、二人は抱き合い、激しい口づけを交わしていたのだ。

その瞬間、影はいやさ私は、誰かの不幸と誰かの幸せが閃光となって交差するのを見た。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』『薄い桃色のかたまり』の劇作を手掛けた。1月、作・演出を手掛ける『三人姉妹はホントにモスクワに行きたがっているのか?』上演予定。